

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成				
基本方針	和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。				
本年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知的好奇心を高める学びの場や地域での多様な体験を通して、主体的に学び、社会に対応できる確かな学力を身に付けた児童を育てる。</li> <li>○ 全教育活動の中で、生命尊重や思いやりの心、郷土を愛する心を育てる。</li> <li>○ 基本的な生活習慣の定着と自分の命は自分で守ることができる態度を育てる。</li> </ul>				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	後期のみのみ
			・具体的な対策の実施	A	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。  ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。  一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	B
			・児童生徒アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	B	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	A	
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前期と比較すると、保護者にも授業改善の効果が浸透している。同様に家庭学習も、質・量ともに向上している。</li> <li>○読書活動については、読み聞かせ活動や図書委員会による啓発で、意欲が向上した。</li> <li>○自主企画事業で愛媛大学に協力を得て、SDGsの意識が大幅に向上した。</li> </ul>				
<p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ねらいと振り返りに重点を置いて研修を進めたが、振り返りの視点をより明確にするなど、まだまだ改善の余地がある。</li> <li>○教材研究を深め、授業改善に努めたが、基礎学力の定着への対応が必要である。</li> <li>○読書離れが顕著で、校内だけの対応では不十分であるため、家庭・地域への啓発を行う。</li> </ul>					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	B		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	教師アンケート	A	A	
				児童生徒アンケート		A
				保護者アンケート		B
	③ 関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	教師アンケート	A	A	
				児童生徒アンケート		B
				保護者アンケート		A
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	教師アンケート	A	A	
				児童アンケート		A
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	教師アンケート	A		
				児童アンケート		B
(成果と課題) ○シューズやスリッパをそろえる指導を全校で継続して実施したことで効果が表れている。 ○規範意識は年々向上が見られるが、個人差がより顕著になってきている。 ○様々な不登校があり、全教職員で支援しているが、改善がされず対応に疲弊している。						
(改善策等) ○不登校の改善に向けて、個別にケース会議を実施し、来年度への引継ぎや関係機関との連携を積極的に行う。 ○挨拶については決まった場所ではできるようになってきたが、気持ちのよい挨拶について指導を継続する。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	教師アンケート	A	A
				休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ○時期にもよるが、退庁の目安時刻を呼び掛けたことで、平均退庁時刻は早まっている。 ○退職者は出てしまったが、職員室の雰囲気は良く、チームとして活動する場面も多く、協力し合える職員室である。 ○職員のサポート体制については、協力員を呼び掛けているが、十分に活用できていない。				
(改善策等) ○学校のできる範囲の業務改善は行っており、さらなるアイデアを募集しているところである。 ○多様な場面で活用できるように地域人材を掘り起こし、積極的に活用を進めたい。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
			・保護者アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・地域アンケート	A	A
			・教師アンケート	B	
			・保護者アンケート	A	
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○学校運営協議会を昼間に実施し、子どもたちの活動を積極的に公開したことで、お互いに身近に感じることができた。</p> <p>○学校運営協議会では、具体的に学校の課題について熟議を行い、新しい取組を検討することができた。</p> <p>○ホームページについては、職員会議で話し合い、より更新することができたが、学年に偏りがあることが課題である。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○学校運営協議会委員にもっと学校を知ってもらうために、児童との交流を今後も実施したい。</p> <p>○学校運営協議会の熟議で話し合ったことを、学校運営協議会が主体となって実践できるように話を進めていきたい。</p> <p>○ホームページの更新数を増やすために、教職員以外でも更新できるような組織づくりを行いたい。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満